

●サーバ本体装置の仕様による、サーバがUPSに連動して起動しなくなる場合の回避策について

【現象】

スケジュールによる自動運転、および、停電復電時の動作として、UPSからのAC電源の停止と開始の間隔が数秒間と短くなるような動作の場合、サーバ本体装置側の仕様によりサーバがAC電源の停止/開始が行われたことを認識できず、サーバ本体装置側でUPSの動作に連動した電源停止/開始が行われない場合があります。UPSからの電源供給は開始されているにも関わらず、サーバの電源が起動していない状態となっていた場合、本現象が発生している可能性があります。本現象に該当すると思われる場合は、以下の【回避策】による対策を実施してください。

以下のような場合、UPSの電源停止/開始の間隔が短くなり、本現象が発生しやすい状況となります。

○スケジュールによる自動運転において、切断時刻と投入時刻の設定間隔が短い場合

スケジュールシャットダウン時の動作として、設定したスケジュールOFF時刻経過後、電源切断時のジョブが登録されている場合は、電源切断時のジョブを起動します。

ジョブの終了、もしくは、ジョブのタイムアウト時間経過後、OSのシャットダウン処理が起動されますが、その際、UPSの電源OFFまでに必要な時間を加味し、UPSに設定する次のON時刻までのスリープ時間を計算します。

また、Smart-UPSでは、時間を6分単位にて認識するという仕様があるため、6分に満たないスリープ時間となった場合、スリープ時間を切り捨てる場合があります。

<注意>

PowerChute Business Editionについては、スケジュールによる切断時刻と投入時刻の設定間隔が短い場合においても、最低6分間のスリープ時刻が設定されるため、スケジュール運転において、本現象が発生することはありません。

○停電によるシャットダウン起動後、UPSの電源供給が停止するまでの間にUPSが復電した場合

【回避策】

UPSの電源供給停止後、起動要因発生から一定時間、UPSから電源供給を開始しないようにする設定を使用することで、UPSからの電源供給を停止する時間を確保することが可能になり、本現象を回避することができます。

設定値については、サーバ本体の仕様をご確認の上、サーバ本体装置にて必要な時間以上の値を設定願います。

設定方法は、各製品毎に異なりますので、該当する製品部分を参照願います。

[ESMPRO/AutomaticRunningControllerの場合]

AC Management Console (AMC) の電源装置の画面を表示し、SNMP設定情報内の「Disk保護時間」を変更します。

投入要因発生後、Disk 保護時間に設定した時間経過した後にUPSからの電源供給が開始されます。
AMC 内における設定変更後は、ESMPRO/ARC Service の再起動を行ってください。

[PowerChute Business Edition の場合]

<PowerChute Business Edition v. 7.0.4 以降の場合>

PowerChute Business Edition コンソールを起動し、[デバイスのプロパティ]
-[シャットダウン]-[電源障害]から、[電源回復時の UPS 再起動]-[バッテリーが次の
容量まで充電されたとき]を選択し「待機時間」の設定を行います。

(LCD パネル付き Smart-UPS の場合)

PowerChute Business Edition エージェントへ WebUI よりアクセスします。
[シャットダウン] -> [コンセントシーケンス] より「コンセントグループの電源オンまで
の時間」の設定を行います。

<PowerChute Business Edition v. 6.1/v. 7.0 の場合>

PowerChute Business Edition エージェントへ WebUI よりアクセスします。
[保護されたシステム]-[シャットダウンの設定]より「UPS 再起動待機(時間)」の設定を
行います。

投入要因発生後、UPS 再起動待機(時間)または待機時間に設定した時間経過後に UPS からの
電源供給が開始されます。